

議長（竹島貴行君） ただいまの出席議員数は8人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

2番 塩原 勝君。

2番（塩原 勝君） 質問の前に一つお願いしておきます。現在、村史の第3号が編纂中ではありますが、こういった内容のものになって、現在どの程度まで進んでいるかということ定期的に報告していただきたいなというふうに思っております。

それでは、一般質問の通告書に従い質問させていただきます。

現在舟橋村には、文化財保護法に基づく、文部科学大臣が指定した史跡・名勝・天然記念物はありません。しかしながら、小さいこの村内に、各地区を中心として、神社、仏閣、道祖神、石碑、地蔵、そしてまた仏生寺城があった 場所ははっきりしていませんが、城跡、そして過去のいろんな伝説にちなむ場所、そしてまた文化財保護法により開発するときに発掘された考古学的に非常に価値の高い、そういう埋蔵文化財も数々あるわけであります。

神社で言いますと、前方後方墳で歴史のある竹内の天神堂（神明社）。県内では、前方後方墳は6つほどしかないようですが、この中でも保存率が一番いいと言われるもので、恐らくすごく価値のあるものではないかなというふうに思います。そしてまた、3社が合体されて建立された、風格のある舟橋の白山神社。これは、白山神社とか諏訪神社、加茂神社と合体して今の位置に白山神社として1つにまとめられて村社になっていました。残念なことに、すばらしい木造のものは火災でなくなり、現在は鉄筋コンクリートのものになっておりますが、なかなか広い境内にしっかりした建物でその威容を示しております。

仏閣については、村内唯一の県の指定文化財を持つ無量寺を初め、非常に格式の高い寺々がたくさんあるわけであります。

道祖神は「路傍の神」とも言われ、石碑や石像の形で、村の守り神として子孫繁栄や交通安全を願って立てられています。この部分は、今高校生になっている東芦原の吉川天絵さんが中学校1年のときに立山区域で発表して金賞をもらったすばらしいその発表を参考にもさせていただきました。この道祖神、竹内には2つ並んで、右大岩道、左何々と書いたものもあります。東芦原では、野良仕事をしていた人が川に流されて、しがみついた助かった岩を道祖神にしてまつてあるということでもあります。そのほかにも幾つかあります。

石碑や記念碑は、郷土のために尽力し功績のあった人のもので、これまでの村史では7つありました。中には、過去に郷土出身で活躍した力士のものもあり、また舟橋地区の白山神社の境内には力士の碑と思われるものがあります。また、国重には、ばんどり騒動にかかわった小松川塚というのがあります。そして戦没者の碑は、日露戦争からのもので、海老江、仏生寺、東芦原などにあります。功績のあった人の碑は、竹内に稲田六三郎さんのものがあり、また舟橋クリニックの前にもあります。比較的新しいものでは、舟橋地区の桜井産業さんの前に、故稲生貞吉さんが建立されたものがあります。

次に、村内には地蔵さんも結構あるようで、白山神社の境内にもありまして、毎年、母親クラブと子どもたちで地蔵祭りをしております。また、県道水橋立山線の上市区域放土ヶ瀬と舟橋の境界線のあたりに昔からある地蔵ですが、これははるか昔、天秤棒を担いだ行商が白岩川の舟の橋を渡ってこの地に来ると、キツネが出て物を奪ったり、そしてまた驚かしたという話があって、それを鎮めるために建てられたという言い伝えがあります。

次は、今ははっきりしていませんが、仏生寺城の城跡。それからまた、無量寺については、県内に来たときには上市の山奥のほうにあったそうですが、それが江戸時代だと思われませんが、八幡川の近くに建てかえられまして、そしてそこにあったところに、そこのお寺のおばあさんが、自分が死んだら次の世で食べるんだと言って、毎日お椀に半分余りのご飯を八幡川に流していたと。そして、やがて亡くなって、今度、7月の無量寺の祠堂経には雨と一緒にやってきて、祠堂経が終わると、そのうちに帰っていかれると雨も連れていかれたという話が伝えられております。そしてまた、次は、八幡川には藤津橋というのがありますが、この橋もいわくがあって、こういうことになっております。舟橋の長い歴史、特に舟橋がここらを中心に稲作が伝わった場所としてそういったことがあるわけですが、そのほかにも、松田の崖とかその他過去の伝説や言い伝えにかかわる場所もあるわけでありまして。

埋蔵文化財については、舟橋村はどこを掘っても埋蔵文化財が出てくると言われるところでありまして、物流のための川の便が非常によかった。ですから、笹舟などでたくさん物が運び込まれ、こちらのほうの米などが運び出されたというところであり、またすばらしい扇状地で土石流もほとんどなく、田畑の作物もつくりやすく、また伏流水も豊かで大変おいしいと。そういったことから、縄文時代から既に人が住み着いていたようで、旧中新川郡の中のかなめの地であったと。大岩へ行くのにもここがよく使われ

たし、立山登山にも通路になっていたようであります。

ことし、議員全員で県の埋蔵文化財センターに行ってきました。私は教育長をやっていた時代に10回以上も行ってありますが、ここで知った話であります。竹内東芦原遺跡というのがあります。ここからは縄文時代の土器と集落の跡が見つっております。浦田遺跡からは弥生時代の、本格的に人々が定住していたというものがみつっております。そして、古墳時代、このときには村内、あるいは村の周辺で古墳が盛んにつくられ、ここらあたりは古墳の密集地とされております。これらにかかわる物は、竹内天神堂遺跡からであります。そして、奈良・平安時代には、掘っ立て柱の建物、掘っ立て小屋と言ってもいいですが、こういったものが村内にたくさん建てられ、これらは浦田遺跡から。あるいは、仏生寺城の関係のことからもわかって来ていることではありますが、仏生寺城もこの時代に考えられたというか、手をかけられたんではないかと思われております。室町時代には、仏生寺城が築かれ、細川氏が城主となっております。仏生寺城の城跡は、これは大分前に発掘されまして、せっかくの城跡の丘といいますが、これもほとんど地方鉄道の軌道の下に入ってしまったっております。あつという間に土が運ばれたと聞いております。これは文献にもあり、また監査をやっておられる野村厚壽さんのところのおうちにもあると私は聞いております。

埋蔵文化財は開発に迷惑だというようなけちな考えを変えて、整理して解説書をつくり、歴史やその価値を知り、教育にも生かすべきではないかと思えます。現在、県の埋蔵文化財センターによれば、開発された舟橋村に係する遺跡だけで20を数える。それらのものは、埋蔵文化財センターと舟橋村役場の3階にただ保管されているだけで、展示もされておられません。過去には、これらに関する文献が若干あったわけですが、それ以外、紹介文や案内文もないし、またそれらをわかりやすくまとめた冊子もなければ、デジタル化したDVDで映像で見ることできません。だから、村内外の人々にはほとんど関心も持たれず、知られておりません。

そこで、お願いということになりますが、一つ、価値のある文化財や史跡やこれらに係のある場所の近くに案内や解説のための看板を立てる。一つ、デジタル化してDVDをつくり、映像で見られるようにする。一つ、写真などをたくさん入れて冊子にまとめる。一つ、文化財的な価値や考古学的価値の高い物を展示できる歴史博物館をつくる。そういったことが急にできないとしても、最低でも役場や学校、舟橋会館、舟橋図書館では、資料や映像で郷土の文化や歴史が学べるようにする。

ちょっと余談になりますが、立山中央小学校が昨年の秋、新築されました。すばらしい学校であります。その中の一つで、子どもたちが自由にテレビのスイッチを入れると学校の歴史や、あるいは歴代の校長、その歴代の教職員、そして歴代の 歴代というよりも、その年度、年度の卒業生の集合写真、そして同窓会長、あるいはまたそのときのいろんな歴史や関連のあったことが映像で非常にわかりやすく見られるようになっております。

そういったことで、まとめとして、村内に存在するこれらの文化財的価値や考古学的な価値の高いものを整備し、わかりやすくし、そして児童生徒や村民に関心を高めてもらい、こういったことで、先ほども山崎議員さんにありましたように、これからの舟橋村のPRにも役立てていきたいというふうに考えるわけですが、教育長の考えをお願いいたします。

以上で終わります。

議長（竹島貴行君） 教育長 高野壽信君。

教育長（高野壽信君） 塩原議員さんのご質問にお答えします。

現在、舟橋村では、村史編纂という大きな事業に取り組んでいます。この村史の作成に当たり、学識経験豊かな方々に編纂をお願いしておりますが、資料不足でご苦労の中、舟橋村に関する文献や資料を整理収集して執筆中です。

先日、編纂委員の方々と村内探索をしてきました。一部で舟橋村には歴史がないという声もありますが、仏生寺城、無量寺への疎開、ばんどり騒動、白岩川・細川の交易、神明社の古墳など、村内にも先人が築いてきた多くの歴史があります。村史発行は、村民の皆さんに、歴史に強い興味・関心を持っていただけるとともに、村への愛着を深めていただけるものと思います。

塩原議員さんの質問にあります「文化財的価値や考古学的価値の高いものを整備し、わかりやすくして、児童生徒や村民に関心を高めてもらいたい」については、以前から取り上げられていますが、その必要性は認識しております。他の自治体では博物館や郷土資料館など設置されており、大変価値のあることと思います。

ご存知のように、村では舟橋会館の2階に、きらめきの郷を調査したときの物ですが、「東芦原の遺跡」として、小さなコーナーではありますが、説明もつけて展示をしています。しかし、より充実したものにするためには、保管場所、保存方法、展示場所、展示方法、管理者、職員、経費など幾つかの課題があります。

まずは村史発行という大きな事業を成し遂げ、作成過程で得られる文献や資料などの保存も含め、改めて検討したいと思います。その折には、また皆様のご協力、ご指導、ご理解をいただきたいと思います。

以上で答弁とさせていただきます。

議長（竹島貴行君） 塩原 勝君。

2番（塩原 勝君） 村史編纂の後という考え方はだめだと思います。同時進行でやるからこそ調査研究も深まるというふうに考えますので、私が言った何か一つでも中心的にやっていただきたいと、一つのお願いとして申し上げます。

議長（竹島貴行君） 教育長 高野壽信君。

教育長（高野壽信君） 塩原議員さんの言われたことを心得ておきたいと思います。